

「観光先進国」へ、2024年を始動の年に

2024年は宿泊業界にとってどのような年になるか。4団体のトップに昨年の回顧と今年の展望を聞いた。

(聞き手=森田淳)

ポストコロナ時代、新たな問題解決へ

全日本ホテル連盟会長 清水 嗣能氏



経営者が自ら変わる、大変革の1年に

「コロナ禍を含めた23年の宿泊業界の回顧を。利用も補助対象だった。が、10月から対象外となり、旅館さんや観光ホテルが対象で、なせコロナ禍で同様苦しんでいる連盟減らすなら、ホテルを取り巻く状況は大きく暗転している。連盟として、自民党の観光産業振興議員連盟と調査会を要する機会があった。その際に最初に話題に挙がったのが、2003年に流行したSARSの事例で、観光業界を支援するために旅行業に「宿泊費用の請求」に関する、出張費の対象となるような政策を早急に講じていただきたいとお願いをした。それが実現して2020年7月からはGo To To...」

「お返しがあり、出勤がなければ出張もなくなってしまう。宿泊業は人が動いていない。この業界としての革命を成し遂げた好事例だと思ってる。ただ、結論から言うと、宿泊業界は今、売上げが全体的に上がっていない。都市部を中心に、客室稼働率は、売上げが全体の約7割を占めている。都市部では、ホテルの稼働が、人々の移動が止まっている。各ホテルの稼働が、人々の移動が止まっている。各ホテルの稼働が、人々の移動が止まっている。各ホテルの稼働が、人々の移動が止まっている。」

日本ホテル協会会長 定保 英弥氏



担い手確保へ働きやすい環境づくりを

「2023年の振り返り。この3年間、未曾有の難局。非常に厳しい状況が続いてきた。昨年10月、水際の緩和がなされ、全国旅行支援も始まり、ようやく国内の動きが出てきた。そして昨年5月に新型コロナウイルス感染症に感染した人々の回復が、新型コロナウイルス感染症に感染した人々の回復が、新型コロナウイルス感染症に感染した人々の回復が。」

「2023年の協会事業に取り返せるものではない。金融支援を訴えたが、これもなかなか継続的に訴えていかねない。今、すでに客室が来ているからホテル、旅館業界は大きなダメージを受けている。10月に訪日外国人の数がコロナ前を越えたとはいえない。しかし、コロナ前を越えたとはいえない。しかし、コロナ前を越えたとはいえない。」

Advertisement for Maru Ei Ryokan, featuring images of the resort and text describing its amenities like hot springs, food, and rooms. Includes contact information and a QR code.